

RACE REPORT

Japanese Endurance Race
SuperTaikyū

ENEOS **BRIDGESTONE**

AutoLabo

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE 第4戦 SUGOスーパー耐久4時間レース

2026年7月4日～7月5日 / スポーツランドSUGO

富士24時間レースを終えてシーズンも後半に差し掛かり、スポーツランドSUGOへやってきた。山間部特有の激しいアップダウン（高低差73m）と、狭くタイトなコーナーが続くレイアウトにより、アクシデントや予測不能な波乱が起きやすいことから「魔物が棲む」と言われているコースである。去年はスポーツランドSUGOではST-4クラスが休戦であったため、スイフトスポーツにとっては初のコースとなる。今年の前半戦で大きく進歩を遂げてきたスイフトスポーツは、初のSUGOでどのような戦いを見せるのか。

さらに、今回はS耐チャレンジの第2戦も7月5日に併催であり、マネージャーの箱入娘*Mayuと雨音ももはもレースに挑む。AutoLabo Racingはスイフトスポーツ・素ヤリス・S耐チャレンジの2台で合計4台体制。多忙なレースウィークが幕をあける。

本戦のマシン&ドライバー ラインナップ



ST-4クラス No.290
AutoLabo Racing スイフトスポーツ



Aドライバー
西村 和則



Bドライバー
伊藤 大輔



Cドライバー
茂利 大輔



ST-5Fクラス No.291
AutoLabo Racing 素ヤリス



Aドライバー
横尾 優一



Bドライバー
森川 なるお



Cドライバー
安原 優弥



Dドライバー
大友 敦仁

7/3(金) 専有走行

前回の富士24時間でスイフトスポーツに起きたトラブルは、タービンが原因であった。対策品のタービンの開発には非常に時間がかかるため今回の導入は見送ったものの、今後のタービン換装に備えたデータ蓄積のため、まずは冷却系のアップデートを施した。このレースウィークを通じて各部温度のデータを取得し、今後のアップデートの布石とする。

この日は午前中に雨が降り続いたため、スイフトスポーツ・素ヤリスともに走行を控えた。曇り空になってきた午後から走行を開始し、各車セッティングの調整・各ドライバーの習熟を行った。夕方にはコースウォークの時間が設定されており、全ドライバーでコース攻略について意見を交わしながら全長3.6kmのコースを歩いた。



AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service
Ryoso

香川トヨタ



龍目澤正志

Triple R

YOSHINO MOTORS



KTC

株式会社 ミライズ

RACE REPORT

Japanese Endurance Race

Super Taikyu

ENEOS BRIDGESTONE

Auto Labo

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ

7/4(土) AM 予選

まずはBドライバー予選が行われ、伊藤選手が出走。1分35秒644を記録し、GR86のうち1台を上回った。続くAドライバー予選では雨が降り始める難しいコンディションの中、西村選手もGR86を1台上回り、予選最下位からの脱出となった。Cドライバー茂利選手は小雨が降り続く中、1分39秒760を記録した。

素ヤリスはドライバー4人全員がヤリスカップの熟練ドライバーという顔ぶれで、路面状況が刻々と変化する中、それぞれ堅実にタイムを記録。クラス6台中5位のグリッドを獲得した。

7/4(日) PM 決勝

予選の後に雨は止み、ドライコンディションの路面で決勝がスタートした。Aドライバー西村選手がスタートドライバーを担当し、順調に走行。25分が経過する頃、コース上ではタイヤのパンクや足回りの折損などトラブルが多発し、SUGOの魔物が顔を覗かせる。ST-4クラスで上位争いをしていた884号車もタイヤが脱落。1時間が経過し、Bドライバー伊藤選手に交代。伊藤選手が30分ほど走行した頃、ここまでノートラブルで着実に走行していたこともありこの時点でクラス6位までポジションアップしていた。ここでCドライバー茂利に交代するも、タイヤ交換の際に左フロントのハブボルトが1本舐めていることが発覚。なんとかタイヤ交換を済ませて出発後、1分36秒台の好タイムが出たものの、ハブボルトをいたわるため縁石を避けながら走ることに。22周走ったところに、左フロントからの振動が徐々に大きくなってきたため、危険を冒すことはやめてピットインを判断。ハブ交換を10分程度で終えて伊藤大輔選手が再出発し、残り1時間20分の長いスティントをこなして10位完走となった。

素ヤリスはAドライバー横尾選手からスタート。15分が経過した頃にエアフロセンサー不調によるエンジントラブルがあったものの、素早いトラブルシュートでレースに復帰。その後は全員が安定したドライビングでバトンを繋ぎ、ノートラブルの堅実な走りでクラス6台中5位のフィニッシュとなった。

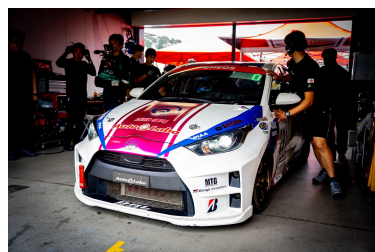


代表 國松 宏二

代表コメント

富士24時間で大きな進歩を遂げたスイフトですが、後半戦に向けて次のアップデートへと動き出しています。今回は具体的な戦闘力アップはありませんが、まずは戦闘力アップに向けたデータ収集に集中しました。それでも、ラップタイムは大きく改善していて、予選ではクラス最後尾からの脱却を果たしました。決勝では足回りに限界がきてしまい、SUGOの魔物には敵わなかった形となり、とても悔しいです。素ヤリスは安定感のあるメンバー・信頼性のある走りで安心することができました。

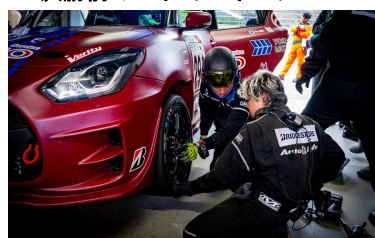
次戦のオートボリスは素ヤリスのみですが、スイフトスポーツはRd.6 岡山で大きな変化を遂げるので、楽しみにしてください。



▲ 出走する素ヤリス



▲ 決勝前のスイフトスポーツ



▲ 急ピッチでハブ交換を行う



「S耐チャレンジ」第2戦にマネージャー2人が参戦！地上波TV局の密着取材も

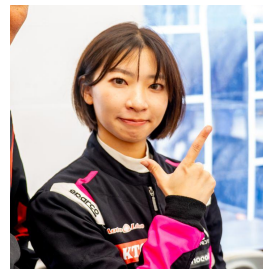
今年から本格始動したエントリーカテゴリーである「S耐チャレンジ」第2戦が開催され、前回に引き続きマネージャー2人がヤリスで参戦。事前にSUGOまで遠征し練習走行も行い、念入りに調整を行ってきた。

7/4(土)に行われた予選はA・Bドライバーのタイムを合算する形式で行われ、なんとクラス1位を獲得。ところが、7/5(日)の決勝は開始直前に雨が降り出し、慣れていないコースで初のウェットコンディションの中を走るようになった。スタートドライバーを務めた雨音は順調に走行していたが、追い越しをかけてきた他クラスの車両と接触してしまい、S耐チャレンジのルールによって賞典外となってしまった。そんな中でも、Mayuは11台の車両をパッシングするドライビングを見せ、記録には残らないながらもベストを尽くした。着実に経験を積んで成長しつつある2人の結果は、第3戦 富士に期待したい。

さらに、今回のレースウィークを通じて2人を密着取材する形でフジテレビが特集を組み、地上波「すぽると！」コーナーでオンエアされた。



Aドライバー
箱入娘*Mayu



Bドライバー
雨音 ももは

AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service
Ryoso

香川トヨタ



龍目屋

Triple R

YOSHINO MOTORS



KTC

株式会社 ミライズ